

木田電業のコンテナシアター

「K-CONTAINER」の特長

1



—自由設計—

20フィートというサイズが決まったコンテナを躯体に使う以外は、一般的な住宅と同様に自由に設計することができる。ショールームはコンテナを1つ使う仕様だが、複数組み合わせることで空間を広くすることもできる。

2



—インストール済—

ホームシアターショップの木田電業が提案するので、ホームシアターはすべて事前にインストールされた状態で納品される。ケーブルの隠蔽やスピーカーの天井りに加えて、内装のデザイン、照明計画といったことまで相談できる。

3



—安心・安全—

建築用のコンテナを改造した重量鉄骨の建造物となるため耐久性も高い。もちろんコンクリートで基礎をつくり固定するため、倒れるなんてこともない安心仕様だ。オプションとなるが、防犯カメラも設置できるなど、セキュリティ面も強化できる。



DETAIL 内部は一般的な居室と同じでシアター付き!



6畳90インチの本格仕様

ショールームで体感できるホームシアターは、約90インチのスクリーンにJVCの4Kプロジェクター「LX-NZ3」を組み合わせ。スピーカーはイクリプスの新作「TD307MK3」を5本に、サブウーファーもイクリプスの「TD316SWMK2」を合わせた本格仕様だ。



天井設置すれば広い

K-CONTAINERの内部は限られたスペースなので、ショールームではAVアンプやプロジェクターなどもすべて天井設置している。このスタイルはあくまで一例だが、床面を広く確保できるため、デスクを置くなど、シアター以外のエッセンスも入れる余裕がある。

お問い合わせ

木田電業

〒889-1801
宮崎県都城市山之口町富吉4192-4
☎0986-57-4305
MAIL info@kida-dengyo.com
HP https://kida-dengyo.com/



インストーラー
井上祐樹さん
phonenumber:2170

インチ。壁のサイズに合わせて特注したが、ケースが見えないように、ふかし天井とするなど、設置方法にもこだわっている。その他、AVアンプなどの機材は専用ラックを造作して設置するなど、ホームシアターを思いっきり楽しめる空間だ。

「20フィートというコンテナの大きさは決まっていますが、内装や外装はもちろん、窓やドアの位置、ホームシアターも含めて、すべてが自由設計できます。お客様の家庭の環境に合わせたプランをご提案できます」と、同店井上氏。

価格は設置内容によって異なるが、ショールームと同じ仕様のコンテナ単体で500万円前後を見込む。まさに離れをつくる感覚でつくれるので、ぜひ同店に問い合わせしてほしい。

庭につくる新しい“離れ”のスタイル



コンテナシアター始動

アウトドアの要素をミックスした住まいは、いま日本でも注目を集めているが、木田電業が提案する「K-CONTAINER」は、コンテナハウスにホームシアターをインストールしたオールインワンパッケージだ。早速詳細を見ていこう。

文/編集部

コンテナの秘密基地感とホームシアターが融合

海上用コンテナを改造して住まいにする「コンテナハウス」は、そのアイコン的なデザインが人気を博し、いまジワジワと広がっている新しい住宅スタイルだ。木田電業は、そのコンテナハウスにホームシアターをインストールした「K-CONTAINER(ケー・コンテナ)」の販売を開始する。そんな一報を受けた取材班は、緊急事態宣言が出ていないタイミングを狙って、宮崎県都城市にあるショールームを訪ねた。

金属素材のコンテナを躯体に使用するが、壁裏に硬質ウレタンフォームを吹き付けてあるため、断熱効果が高い。取材時は夏場だったにも関わらず、エアコンも手伝って室内は快適なものだ。4隅の足元に基礎を作って固定する仕組みなので、安定性の面も心配無用だ。何より、母屋とは隔離された「離れ」となるため、思いっきり遊びや仕事に没頭できる空間となるのが、ニューノーマル時代にぴったりなスタイルといえる。

ホームシアターも最新設備が整う。今春発売され、一時欠品するほど人気を集めるイクリプス「TD307MK3」を5本、すべてを天井設置。スピーカーの振動板を視聴位置に合わせて配置するなど、セッティングも良好。スクリーンは約90